

# 研究公正推進事業の令和2年度実績及び 令和3年度事業計画

文部科学省、日本学術振興会、科学技術振興機構、日本医療研究開発機構  
令和3年5月24日

# 研究公正推進事業 (日本学術振興会/科学技術振興機構/日本医療研究開発機構)

令和3年度予算額 137百万円  
(前年度予算額 105百万円)  
※運営費交付金中の推計額



## 背景・課題

- 文部科学省は2014年8月に「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」(文部科学大臣決定)を策定。
- ガイドラインは、研究活動における不正行為の防止のため、研究機関に対して研究倫理教育の実施を求めており、文部科学省及び資金配分機関(日本学術振興会、科学技術振興機構、日本医療研究開発機構)に対して、研究倫理教育に関する標準的なプログラムや教材の作成、実効性の高い研究倫理教育とするための支援等が求められている。
- 2018年12月に公布された「科学技術・イノベーション創出の活性化に関する法律」においても、「研究開発等の公正性の確保等」が強く求められている。

## 事業概要

### 【事業の目的・目標】

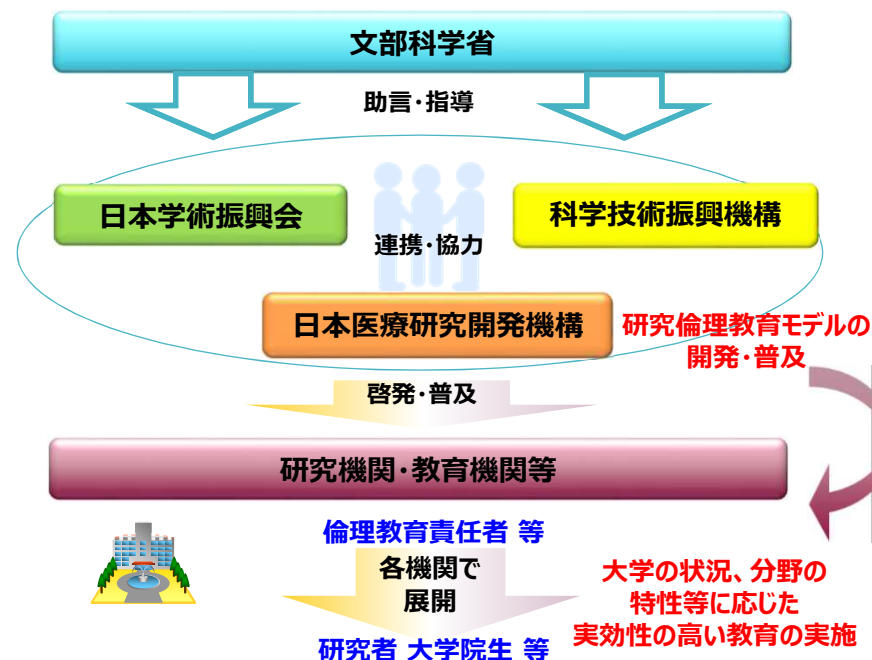
研究倫理教育教材の普及・開発、研究倫理教育高度化や不正防止・対応相談窓口の設置により、それぞれの状況に応じた効果的な研究倫理教育の実施等を支援することで、公正な研究活動を推進。

### 【事業概要・イメージ】

<日本学術振興会>	<科学技術振興機構>	<日本医療研究開発機構>
研究倫理教育教材の開発・普及		
電子教材 (eL CoRE) の運用・改善等	ポータルサイトの運用・改善等	ケースブックの作成・配布等
研究倫理教育の高度化		研究倫理映像教材の制作
研修会やシンポジウムの開催 (3FA連携)		
電子教材を活用したセミナーの開催	研究公正担当者向けWSの開催	研究公正担当者のネットワーク構築・情報交換促進 (RIOネットワーク)
不正防止・対応相談窓口		
研究機関における不正行為を防止する体制の構築の相談対応・助言 (3FA)		

<文部科学省> ○ガイドラインに基づく履行状況調査等 (3百万円)

### 【事業スキーム】



### 【これまでの成果】

- ・電子教材 (eL CoRE : 日本語版 & 英語版) の開発・公開等 (JSPS)
- ・研究公正ポータルサイト (日本語版 & 英語版) の構築 (JST)
- ・医療分野の研究不正事例集、ヒヤリ・ハット集の作成 (AMED)
- ・研究公正シンポジウムの開催 (3FA連携、毎年度実施) 等

## 2020年度実績

### 1. 研究倫理教育教材の開発・普及

#### (1) テキスト教材 (Green Book) の普及

- 日本語版、英語版
- ホームページにおいてテキスト版 (日本語版・英語版・製本版) を公開

#### (2) eラーニング教材 (eL CoRE) の運用・改善等

- 研究者向け・大学院生向け教材
    - ・それぞれについて日本語版、英語版を提供
    - ・利用者からのアンケート結果等をもとに、操作性向上のための改修を実施 (2021年3月改修実施)
    - ・教材の改修に向けた、コースレビューのテキストマイニングを試行的に実施
- 登録者数：466,448名 (2021.3.31時点) ※のべ人数

### 2. 研究倫理教育の高度化

- 第3回JSPS研究倫理セミナー「研究者倫理教育にグループワークを導入する」の開催 (2020.12.4)  
※オンラインセミナーとして実施
  - ・eL CoRE既履修者で、研究機関の研究倫理教育担当者45名が参加
  - ・専門家による講演やグループワークを実施
- 第3回研究公正シンポジウム「研究公正において指導的な役割を果たす人材～その役割、資質、育成～」を開催 (2020.12.15)  
(主催：AMED、共催：JSPS、JST、NEDO、BRAIN)
  - ・研究者や研究機関事務担当者などが参加
  - ・専門家による講演やパネルディスカッションを実施

### 3. 不正に関する告発等受付窓口

- 電話、FAX、メール又は面談により告発等を受付

## 2021年度計画

### 1. 研究倫理教育教材の開発・普及

#### (1) テキスト教材 (Green Book) の普及

- 前年度に引き継ぎ、普及に努める。

#### (2) eラーニング教材 (eL CoRE) の運用・改善等

- 研究者向け・大学院生向け教材
  - ・引き続き、日本語版、英語版を提供し普及に努める。
  - ・教育効果の高い、よりよい教材へ改善するため、修了者によるコースレビューのテキストマイニングを実施し、その結果を踏まえ、有識者のもと改修案を検討

### 2. 研究倫理教育の高度化

- 第4回JSPS研究倫理セミナーを実施予定 (2021年秋頃)  
※新型コロナウイルス感染症の動向によっては、オンラインセミナーとすることを検討
- 研究公正シンポジウムの実施
  - ・2020年度より、5FA (JSPS、JST、AMED、NEDO、BRAIN) 連携により実施
  - (2021年度はJST主催で開催予定)

### 3. 不正に関する告発等受付窓口

- 電話、FAX、メール又は面談による告発等の受付を引き続き実施



# 研究倫理eラーニングコース (e-Learning Course on Research Ethics) [eL CoRE]

『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会編をもとにeラーニング教材 **eL CoRE** を開発。

eラーニング教材 **eL CoRE** は、人文学・社会科学から自然科学までのすべての分野の研究に関わる者が、どのようにして科学研究を進め、科学者コミュニティや社会に対して成果を発信していくのかといったことについて、エッセンスになるとと思われる事柄を整理。

研究を進めるにあたって知っておかなければならないことや、倫理綱領や行動規範、成果の発表方法、研究費の適切な使用など、科学者としての心得を提示。

	研究者向けコース	大学院生向けコース
第1章	今なぜ、責任ある研究活動なのか？	今なぜ、責任ある研究活動なのか？
第2章	研究をめぐる事例 研究不正行為、オーサーシップの偽り、不適切な発表方法、著作物の利用方法	研究計画を立てる 研究の価値と責任、守るべきもの、共同研究と利益相反、守秘義務
第3章	研究費の使用をめぐる不正事例 研究費の適切な使用	研究を進める データの収集・管理・処理、個人情報の保護、インフォームド・コンセント、研究結果のねつ造・改ざん
第4章	科学の健全な発展のために、見過ごせない事例 好ましくない研究行為 (QRP)、研究環境の安全への配慮、インフォームド・コンセントの必要性、査読者の役割と責任	研究成果を発表する 盗用、オーサーシップ、不適切な発表方法
第5章	社会の信頼を確立するために、見過ごせない事例 利益相反の定義と適切な対応、個人情報の適切な取扱い、科学者と社会の対話	社会の発展のために 科学者の責務
第6章	今、科学者に求められていること	—

# 科学技術振興機構 (JST)

2020年度実績	2021年度計画
<p><b>1. 研究倫理教育教材の開発・普及</b></p> <p><b>(1) ポータルサイトの作成・配信運営等</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○他の資金配分機関（JSPS、AMED、NEDO、BRAIN）と連携してコンテンツを配信</li><li>○研究機関の取組やオリジナルの記事等のコンテンツを充実</li><li>○英語版の研究公正ポータル運用</li><li>○研究不正・研究費不正に関するパンフレット（日本語、英語、中国語）の提供（HP・冊子）</li><li>○研究倫理補助教材（THE LAB）の公開</li></ul> <p><b>2. 研究倫理教育の高度化</b></p> <p><b>(1) 研修会・シンポジウムの実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○<b>研修会（WS）の実施</b><ul style="list-style-type: none"><li>・研究者や研究倫理教育担当者がより能動的に参加できる形態で研修会を実施</li><li>⇒効果的な研究倫理の実践方法を考える(第6回：12月2回、31名)</li></ul></li><li>○<b>出前講習の実施</b><ul style="list-style-type: none"><li>・研究機関等からの要望に応じて、JSTによる研究倫理に関する出前講習会を実施。研究機関で倫理研修を実施する際の参考としてもらうことがねらい。</li></ul></li><li>○<b>研究公正シンポジウムの実施</b><ul style="list-style-type: none"><li>・5FA（JSPS、JST、AMED、NEDO、BRAIN）連携により開催（12月）（AMED主催）</li></ul></li></ul> <p><b>3. 不正防止・対応相談窓口</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○電話・メール相談のほか、ポータルサイトの相談窓口を通じ、引き続き対応</li></ul>	<p><b>1. 研究倫理教育教材の開発・普及</b></p> <p><b>(1) ポータルサイトの作成・配信運営等</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○他の資金配分機関（JSPS、AMED、NEDO、BRAIN）と連携してコンテンツを配信</li><li>○研究機関の取組やオリジナルの記事等のコンテンツを充実</li><li>○英語版の研究公正ポータル運用(2020年度～)</li><li>○研究不正・研究費不正に関するパンフレット（日本語、英語、中国語）の提供</li><li>○研究倫理補助教材（THE LAB）の公開</li></ul> <p><b>2. 研究倫理教育の高度化</b></p> <p><b>(1) 研究倫理映像教材の制作</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○倫理的な判断・態度の醸成を図るための、学習者の立場や分野等に応じたケースメソッド式映像教材（2作程度）</li></ul> <p><b>(2) 研修会・シンポジウムの実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○<b>研修会（WS）の実施</b><ul style="list-style-type: none"><li>・研究者や研究倫理教育担当者がより能動的に参加できる形態で研修会を実施（2～3回予定）</li><li>・映像教材を用いた対話型教育手法の検討</li></ul></li><li>○<b>出前講習の実施</b><ul style="list-style-type: none"><li>・前年度に引き続き実施</li><li>新型コロナウイルス感染対策のため、研究機関の要望に応じてオンライン対応</li></ul></li><li>○<b>研究公正シンポジウムの実施</b><ul style="list-style-type: none"><li>・5FA（JSPS、JST、AMED、NEDO、BRAIN）連携により実施予定（2021年度はJST主催）</li></ul></li></ul> <p><b>3. 不正防止・対応相談窓口</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○電話・メール相談のほか、ポータルサイトの相談窓口を通じ、引き続き対応</li></ul>

※NEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)  
※BRAIN(生物系特定産業技術研究支援センター)

## 実践力強化のための双方向型研究倫理教育モデルの開発・普及

### 現状・課題

- 「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」（平成26年8月26日 文部科学大臣決定）の策定以降、各研究機関において、ガイドラインを踏まえた規程の整備や研究倫理教育責任者の配置等の取組が定着。また、eラーニング等の普及により、研究倫理に関する知識・理解は浸透。
- 日本は、eラーニング、教材通読等の**一方向・知識修得型の方法が主流**。また、分野や立場に応じた教材がないため、自分事として考えにくい。

### 令和3年度取組

### 双方向型の教育教材開発を推進

1. 開発コンセプトの狙いや全体像
  - ・知識よりも、価値や態度の変容を促す内容であること
  - ・意思決定について考えさせる内容であること
  - ・不正防止のみの観点だけでなく、責任ある研究活動とは何かを考えさせる内容であること
2. 映像教材のイメージ
  - ・一般的な国内の大学の研究室・環境（理工系分野）を舞台にして、リアル感を持って視聴できる研究室で直面するジレンマや不正発生要因を盛り込む  
（コミュニケーション不全、ライバルとの競争、ルールの無知、研究室の悪しき習慣など）
  - ・立場別で体験  
PI（指導する側）と大学院生（指導される側）のそれぞれの立場で考えられるように構成

### 映像制作委員会

- ＜企画・脚本・構成について助言＞
- ・大学等の研究倫理の専門家や研究公正担当経験を持つ教員等を中心とする外部有識者で構成  
（事務局：JST）
  - ・映像の制作に当たっては、制作委員会においてその内容を検討する。

ワークショップグループワークを実施して活用

### 効果

- ＜大学等の研究機関において活用＞
- 分野や立場に応じた事例により自分事として考えることができ、研究不正過程や適切な行為等の疑似体験を通じた、倫理的判断力・態度の涵養
  - 研究倫理教育人材の育成、関係者のネットワーク構築に資する
  - 研究倫理教育人材が十分に配置されていない大学等においても、視聴だけである程度学べる教材として活用

## 第6回JSTワークショップ

### 「公正な研究活動の推進－効果的な研究倫理の実践方法を考える－」

日時 令和2年12月10日・18日(オンライン) 参加者計 31名

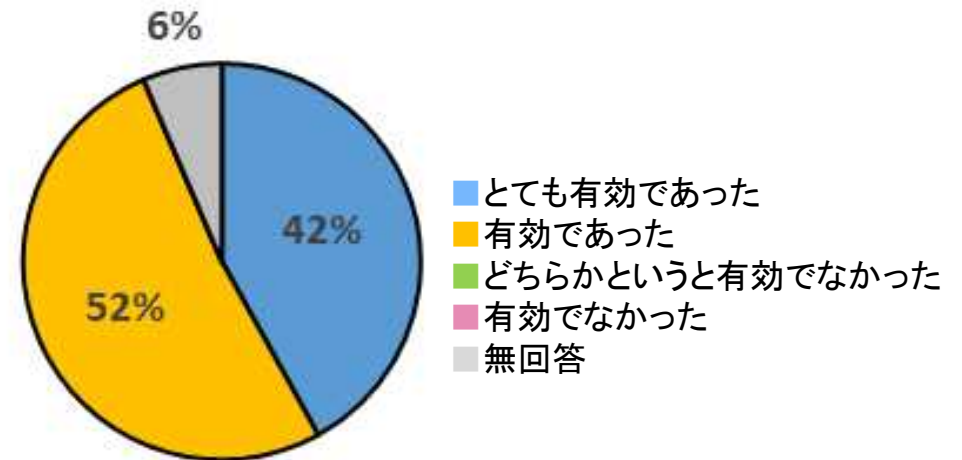
講師 札幌野順(東京工業大学 教授)、小林幸人(熊本高等専門学校 教授)

内容 本ワークショップ(WS)では、これまでのWSで行った研究倫理教育の目標・内容・手法の検討を踏まえて、それを実践する方法と評価のあり方を検討。具体的には、既存の教材「THE LAB」を用いて、各機関で実施する研修会等で受講者に経験させたい具体例を自らが経験しながら、グループワーク(GW)での議論を通して、実際の実践方法を自ら考え、更に評価のあり方についても検討。



### 研修会の参加者の満足度(アンケート)

「公正な研究活動の推進に有効である」との回答が多数得られた



# 日本医療研究開発機構 (AMED)

2020年度実績	2021年度計画
<p><b>1. 研究倫理教育教材の開発・普及</b></p> <p><b>(1) 研究不正に関する事例集の作成・配布</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○「ケースブック（普及版）の英訳版を作成し、PDFを研究公正のHPへ掲載し、RIOネットワークのメールマガジン等により周知</li><li>○「考え方例集」の配布</li><li>○「普及版」の配布</li></ul> <p><b>(2) 研究不正に至らなかったヒヤリ・ハット事例集の配布</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○「研究公正に関するヒヤリ・ハット集」をRIOネットワークのメールマガジン等により周知、配布</li><li>○PDF版を研究公正のHPで公開</li><li>○ヒヤリ・ハット集を活用したワークショップをwebで2回開催<ul style="list-style-type: none"><li>・ヒヤリ・ハットに関する動画講演の事前視聴とグループワークを実施</li><li>・研究倫理教育担当者などが参加</li></ul></li></ul>	<p><b>1. 研究倫理教育教材の開発・普及</b></p> <p><b>(1) 研究不正に関する事例集の作成・配布</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○「普及版」及び「考え方例集」を引き続き、RIOネットワークのメールマガジン等により周知、配布</li><li>○韓国研究財団（NRF）との連携により、「普及版」の韓国語訳を作成</li></ul> <p><b>(2) 研究不正に至らなかったヒヤリ・ハット事例集の配布</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ヒヤリ・ハット集を引き続き、RIOネットワークのメールマガジン等により周知、配布</li><li>○引き続き、ヒヤリ・ハット集を用いたWSの開催<ul style="list-style-type: none"><li>・ヒヤリ・ハットに関する講演とグループワーク</li></ul></li></ul>
<p><b>2. 研究倫理教育の高度化</b></p> <p><b>(1) RIOネットワーク活動の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○研究機関の研究倫理教育責任者や担当者等のネットワークを構築</li><li>○原則毎週水曜日にメールマガジンを発行（49回配信）</li></ul> <p><b>(2) 研究公正シンポジウム</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○「研究公正において指導的役割を果たす人材 ～その役割、資質、育成～」をAMED主催で開催（2020.12.15、有楽町よみうりホール）<ul style="list-style-type: none"><li>・Webで同時配信し研究者、研究機関事務担当者などが参加</li><li>・登壇者による講演、話題提供ならびに討論を実施</li></ul></li></ul>	<p><b>2. 研究倫理教育の高度化</b></p> <p><b>(1) RIOネットワーク活動の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○原則毎週水曜日にメールマガジンを発行</li><li>○分科会の開催を検討</li><li>○5FA（JSPS、JST、AMED、NEDO、BRAIN）連携による、RIOネットワーク活動の在り方について検討</li></ul> <p><b>(2) 研究公正シンポジウム</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○2020年度より、5FA（JSPS、JST、AMED、NEDO、BRAIN）連携により実施予定（2021年度はJST主催）</li></ul>
<p><b>3. 不正防止・対応相談窓口</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○電話・メール相談に、引き続き対応</li></ul>	<p><b>3. 不正防止・対応相談窓口</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○電話・メール相談に、引き続き対応</li></ul>

※ 資金配分機関で連携する取組のほか、研究公正に係る独自の調査研究等を実施（P10参照）

※NEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)  
※BRAIN(生物系特定産業技術研究支援センター)



# ヒヤリ・ハット集を活用したワークショップ

## 目的

研究倫理教育の実施や企画に携わる方がヒヤリ・ハット事例についての考察や議論を行い、研究公正についての新たな気づきを得て、より深く学ぶことを目指す。

## 対象者

研究倫理教育を実施する者(大学の教員等)  
研究倫理教育の企画を行う者(担当部門の責任者等)

## 開催日時

第1回 令和 3年1月28日(木) 13:30 30~16:30

第2回 令和 3年3月 4日(木) 13:30 30~16:30

## 開催形式

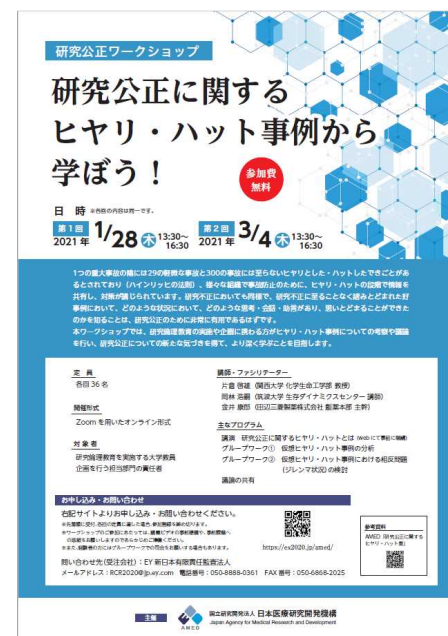
2回とも、Zoom を用いたオンライン形式

## 講師・ファシリテーター

片倉 啓雄 関西大学 教授  
岡林 浩嗣 筑波大学 講師  
金井 康郎 田辺三菱製薬株式会社 主幹

## 事前課題

1. 片倉教授の講演動画の視聴  
「研究公正のための考え方と実践法」(53分)  
<https://www.youtube.com/watch?v=AnfAWpVSXdQ>
2. 仮想ヒヤリ・ハット事例1のフロー図の作成
3. 仮想ヒヤリ・ハット事例2のセブン・ステップ・ガイドを用いた事例分析(ステップ4まで)



**研究公正ワークショップ**

**研究公正に関する  
ヒヤリ・ハット事例から  
学ぼう!**

日時 参加費は無料です。  
第1回 2021年 1/28(木) 13:30~16:30 第2回 2021年 3/4(木) 13:30~16:30

1つの重大事故の輪には29の関連な事故と3000の事例には隠れているヒヤリとしたハット事例が潜んでおり、ヒヤリ・ハットの回避や発生を未然に防ぎ、研究不正に陥ることなく安心して研究を進めたい。そのためのヒントを探る。参加費は無料、深い学びを得ることが期待できる。本ワークショップでは、研究倫理教育の実施や企画に携わる方がヒヤリ・ハット事例についての考察や議論を行い、研究公正についての新たな気づきを得て、より深く学ぶことを目指します。

<b>主催</b> 会場 36名	<b>講師・ファシリテーター</b> 片倉 啓雄 (関西大学 化学生命工学部 教授) 岡林 浩嗣 (筑波大学 生命科学センター 講師) 金井 康郎 (田辺三菱製薬株式会社 製薬本部 主幹)
<b>開催形式</b> Zoomを用いたオンライン形式	<b>主なプログラム</b> 講演 研究公正に関するヒヤリ・ハット事例 AMEDが特に懸念する事例について グループワーク① 仮想ヒヤリ・ハット事例の分析 グループワーク② 仮想ヒヤリ・ハット事例における相談窓口 議論の共有
<b>対象者</b> 研究倫理教育を実施する大学教員 企画を行う担当部門の責任者	<b>お問い合わせ</b> AMED 研究倫理センター 〒100-8588 東京都千代田区千代田1-1-1 TEL: 03-5222-0000 FAX: 03-5222-0001 Eメール: <a href="mailto:rcs22200@amed.go.jp">rcs22200@amed.go.jp</a>

AMED 研究倫理センター  
AMED Research Integrity Center

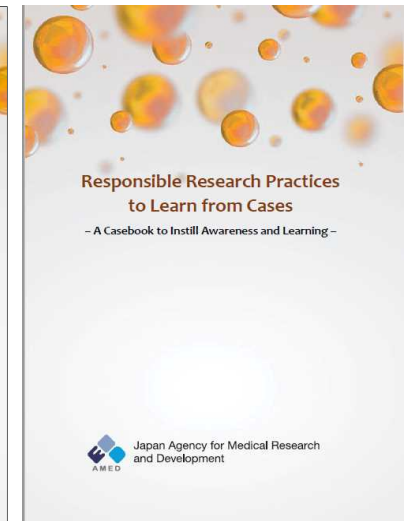
いずれの開催回も、対象とした研究倫理教育に携わる方の参加割合が多かった。参加者の所属・役職等は、企業所属、研究職、事務職等、幅広く、役職も様々であった。

# 事例から学ぶ公正な研究活動 ～気づき、学びのためのケースブック～

ディスカッション形式の教育プログラムにおいて活用できる効果的な教育教材として、実際の不正行為等の具体的事例に基づいて、様々な種類の事例と、個々の事例へどのように対応することが適切なのかを考えさせる、様々な視点からの設問を提示した「ケースブック」を開発した。

一般向けの「普及版」及び講師向けの「考え方例集」を作成  
また、「普及版」の英訳を作成

監修: お茶の水女子大学 森田 育男 副学長  
筑波大学 新谷 由紀子 准教授  
筑波大学 岡林 浩嗣 講師



## 研究公正に関するヒヤリ・ハット集

研究を進めるにあたっては、実際に研究不正を行ってしまう人は少なく、何らかの理由のために不適切な研究行為をしてしまおうか悩みながら思いとどまった例や、周りの人にそれは不適切な行為だと指摘されて不正をせずに済んだ例の方がはるかに多いと考えられる。そのような事例を紹介することにより、研究者が将来似たような状況になった時に踏みとどまれるようにする。

監修: 関西大学 片倉 啓雄 教授  
筑波大学 岡林 浩嗣 講師  
田辺三菱製薬株式会社 金井 康郎 主幹

